

身近なところに誤飲の危険!

～2,000人の保護者に調査。5,801件のヒヤリ・ハットや危険事例が～

紙・シール・ポリ袋など身の回りにある日用品が子供にとって危険の対象に。
医薬品、タバコ、電池などにも気をつけて!

主な事例

紙 (522人)・シール (502人)・ポリ袋 (102人)

- おもちゃにはってあるシールを誤飲して息ができなくなり、顔色が紫になった。
- 破けたビニールを飲み込み、のどに引っかかり息ができなくなったため、119番通報した。
- 広告紙の一部を口に入れて、コホコホ苦しうにしていた。

アメの包み紙、スーパーのレジ袋、おまけのシールなど、さまざまなものがのどにつまったり、のどの奥にはりついた事例が報告されました。シールやポリ袋は、一歩間違えると窒息の危険もあるため注意が必要です。

非常に危ない
事例がありました



タバコ (351人)

- ゴミ箱をいたずらし、吸い殻を出して遊んでいた。
- 灰皿代わりにしていた空き缶の中の吸い殻が溶けた液を飲んだ。
- 床に脱ぎ捨ててあった洋服の胸ポケットのタバコを口に入れた。



誤飲したときの状況で多かったのは、テーブルの上など子供の手の届くところに置いていたケースでした。特に吸い殻が溶けた液は、ニコチンが吸収されやすく、非常に危険です。タバコの管理には十分注意し、吸い殻はすぐに片付けましょう。

医薬品 (354人)

- テーブルに置いてあったシロップの風邪薬を2日分ほど飲んだ。
- チューブの軟膏を折り曲げて、破損した部分から出た薬をなめてしまった。
- 床に落として見つけることができなかった医薬品を、翌日に娘が見つけて口に入れていた。



テーブルの上に置いていた薬を口に入れる事例が多くありました。特にシロップ薬は甘いので飲んでしまう危険があります。薬は、保管場所に気をつけるだけでなく、細心の注意が大切です。

イラスト/urazou

誤飲事故を防ぐために…

- 身近にあるものの大きさをチェックし、誤飲の危険のあるものは、子供の手の届く範囲に置かないようにすることが大切です。誤飲チェッカーなどで確認しましょう。
- 子供は目線が低いので、床に落ちていても大人が気づかないものを見つけてしまいます。整理整頓し、子供の目線で室内の状況を確認しましょう。



『乳幼児の誤飲事故防止ガイド』はくらしの安全情報サイトからダウンロードできます。

相談機関

事故に遭われた時、商品やサービスに原因があると思われる場合には、消費生活センターなどの相談機関に申し出ましょう。

東京都消費生活総合センター

☎03-3235-1155 [受付時間 月～土:9時～16時]

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1

※日・祝日・年末年始はお休みです

土曜日も
相談できます

調査結果のより詳しい内容については、以下のページをご覧ください。



<http://www.anzen.metro.tokyo.jp/>

くらしの安全情報サイトでは、商品・サービスを中心とした危害・危険・安全性といった情報を提供しています。

掲載内容についての
お問い合わせ

東京都生活文化局 消費生活部生活安全課 ☎03-5388-3082

このページは、東京都と東京都生活協同組合連合会の協働事業により掲載しています。